

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 1</b>		
【現代的課題を踏まえ、持続可能な社会の構築に資する教育、研究等を推進させる大学経営】 「島根大学 SDGs 行動指針」に基づき、SDGs の達成を目指した教育・研究等を推進すると共に、持続可能な社会構築のための現代的課題の解決を目指す取組を全学的に推進する。		
		Ⅲ
<b>戦略 1</b>		
「島根大学 SDGs 行動指針」に基づき、脱炭素化や環境問題等の持続可能な社会の構築に向けた現代課題の解決を目指す教育、研究、医療、地域貢献活動を機能強化推進経費等で支援するなど全学的に推進する。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①戦略的機能強化推進経費において、脱炭素化、SDGs 実現の観点から選定された本学の教育、研究等テーマのうち、令和 4 年度からの継続分 5 件に経費を配分して支援する。【独自-2-①②】</p> <p>②食品残渣を飼料として育てたミールワームをペットフードなどに活用することによって、循環型社会を目指す企業等との共同研究など、地域と連携した SDGs 課題の解決へ向けた新規取組を 3 件始める (SDG2、SDG12)。【独自-1-③】</p>	<p>脱炭素化、SDGs 実現の観点から本学の重点研究テーマとして、戦略的機能強化推進経費 (SDGs・カーボンニュートラル推進枠) で令和 4 年度からの継続分 4 件に研究費を配分した。</p> <p>地域と連携した SDGs 課題の解決へ向けた新規取組を 3 件始めた。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
	自己評価	
<b>目標 1</b>	Ⅲ	
【現代的課題を踏まえ、持続可能な社会の構築に資する教育、研究等を推進させる大学経営】 「島根大学 SDGs 行動指針」に基づき、SDGs の達成を目指した教育・研究等を推進すると共に、持続可能な社会構築のための現代的課題の解決を目指す取組を全学的に推進する。		
<b>戦略 2</b>	Ⅲ	
SDGs の理念を踏まえた環境教育、ELSI (Ethical、 Legal and Social Implications：倫理的・法的・社会的な課題) 等の社会倫理教育を推進する。		
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①令和 6 年度開始の全学基礎教育において、ユニバーサル科目群の必修科目として「SDGs 入門」を位置付けるよう規程を整備するとともに、環境教育や社会倫理教育を推進する科目を設定する。【⑥-2-①、独自-1-①】</p> <p>②(再掲 教育ビジョン-目標 1-戦略 3-実行計画②) 専門教育において、各学部に SDGs 関連科目となる学部共通科目・オムニバス科目を令和 5 年度に設計し、令和 6 年度よりカリキュラムに加える。【独自-1-①】</p> <p>③自然科学研究科において、博士前期・修士課程対象科目「持続性科学と SDGs」(日本語)を開講し、全研究科学生に履修を強く促す(学生の 3 分の 1 以上が履修)。特に令和 4 年度に実施したアンケート結果を参照して、授業内容の拡充や授業方法の改善を行う。【独自-1-①】</p>	<p>令和 6 年度開始の全学基礎教育において、ユニバーサル科目群の必修科目として「SDGs 入門」を新規に開発するとともに、専門教育における SDGs 関連科目について、各学部で検討を行い、令和 6 年度からカリキュラムに加えた。</p> <p>自然科学研究科において、博士前期・修士課程対象科目「持続性科学と SDGs」(日本語、受講者数 87 名)を開講し、社会倫理教育を推進した。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 2</b>		
【エンゲージメントを基盤とした大学経営への転換】 大学経営や活動に関する分かり易く透明性のある情報提供により、多様なステークホルダーとの信頼関係を築き、ステークホルダーを巻き込んだ大学経営へ転換する。		Ⅲ
<b>戦略 1</b>		
国により示される予定の新たな会計基準による財務諸表を活用し、本学の諸活動と財務諸表を紐付けた統合報告書を作成すると共に、ステークホルダーへの説明や報告会の開催を通して、本学の活動に対する理解を深める。		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①自治体、企業、保護者、同窓会関係者、島大会員の集い等、多様なステークホルダーを対象に、役員等による統合報告書を活用した大学の活動状況の報告を年 5 回以上実施する。【⑳-2-③、㉔-2-①】  ②経営協議会外部委員との意見交換会を 1 回以上実施する。【㉑-2-②】	自治体、企業等のステークホルダーを対象に統合報告書を活用した大学の活動状況の報告を 7 回するとともに、令和 5 年度に新設した材料エネルギー学部をテーマに経営協議会外部委員との意見交換会を 1 回実施した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 2</b>		
【エンゲージメントを基盤とした大学経営への転換】 大学経営や活動に関する分かり易く透明性のある情報提供により、多様なステークホルダーとの信頼関係を築き、ステークホルダーを巻き込んだ大学経営へ転換する。		
		Ⅲ
<b>戦略 2</b>		
法人経営、教育、研究、社会貢献活動の成果等の迅速かつ適切な情報発信により、学生、教職員、県内自治体、県内企業等、主要なステークホルダーの理解と協働を導く。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①本学の教育・研究、それらを通じた地域・社会貢献の活動内容についてステークホルダーの理解を深めるため、情報発信のアピール度が高い、学長による定例記者会見を年 3 回以上実施する。  ②多様なステークホルダーに各学部・学科の学びをより理解してもらえよう、学生広報サポーターの取材による授業や演習に関する記事の発信を年 5 回以上行う。	本学の教育・研究等を通じた地域・社会貢献の活動内容についてステークホルダーの理解を深めるため、学長による定例記者会見を年 3 回実施した。  学生広報サポーターの取材による授業や演習に関する記事の発信を 5 回実施した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 3</b>		
【自律的経営の確立】 ガバナンスを強化し機動的な経営を推進すると共に、規制緩和により拡大される経営裁量を最大限に活かし、多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的経営を実現する。		Ⅲ
<b>戦略 1</b>		
規制緩和によって可能となった資金調達方策について検討し、必要に応じて先行投資財源を確保する。		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①ネーミングライツ（看板広告含む）について、市場のニーズや関連施設の対応状況等を調査するとともに、学内規程等の整備を行う。 また、クラウドファンディングについて、実施促進のためのセミナーを開催するなどにより、1 件以上増加させる。	他大学の状況等や民間企業のアドバイスも踏まえ、ネーミングライツ事業の実施スキーム等を検討し、ネーミングライツ事業要項(案)を作成した。 クラウドファンディングについて、実施促進のためのセミナーを開催した。(23 名参加)	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 3</b>		
【自律的経営の確立】		
ガバナンスを強化し機動的な経営を推進すると共に、規制緩和により拡大される経営裁量を最大限に活かし、多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的経営を実現する。		
		Ⅲ
<b>戦略 2</b>		
社会や地域ニーズに則した組織整備や規制緩和される学生定員等の柔軟化に対応するなど大学の機能を強化する。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①材料エネルギー学部では、アントレプレナーシップ教育を実施し、企業や自治体から参加する最終発表会において事業化構想を提案する。【④-1-1】</p> <p>②材料エネルギー学部では、地域の企業のニーズを把握するための交流会を開催し、地域企業との共同研究・受託研究件数を 6 件にする。【④-1-1】</p> <p>③総合理工学部では、学部の強みとなる先鋭研究領域を創出するとともに、令和 6 年 4 月の改組の申請に向け、社会のニーズに即した学部改組案を策定する。</p>	<p>令和 5 年 4 月に発足した材料エネルギー学部では、アントレプレナーシップ教育を実施し、企業や自治体が参加する最終発表会において事業化構想を提案した。(県内企業 4 社, 県外企業 5 社, 自治体等を含め総勢約 150 名が参加)</p> <p>また、材料エネルギー学部では、地域の企業との交流会を県東部・西部にて開催し、これを機に地域企業等との共同研究・受託研究を 12 件行った。</p> <p>総合理工学部では、次世代のイノベーションに対応する幅広い専門知識を備えつつ、様々な社会的課題に対して積極的に関わろうとするアントレプレナーシップを持ち合わせた高度理工系人材の養成を目的とした学部改組案を策定した。(令和 7 年 4 月設置予定)</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 3</b>		
【自律的経営の確立】		
ガバナンスを強化し機動的な経営を推進すると共に、規制緩和により拡大される経営裁量を最大限に活かし、多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的経営を実現する。		Ⅲ
<b>戦略 3</b>		
外部研究資金、科学研究費補助金、島根大学支援基金の獲得や資金・資産運用等を強化する。		Ⅱ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】		<b>令和 5 年度実績 検証</b>
		<b>成果等</b>
		<b>課題等</b>
<p>①オープンイノベーション推進本部は、1 年を通してサポートする「競争的研究費申請」アドバイザー制度の運用を開始するとともに、マニュアルやセミナーによるアドバイザーの質を向上させて研究資金確保に繋がる支援を行う。令和 5 年度目標：e-Rad 研究費採択 3 件 3,000 万円、科研費採択件数 363 件、獲得額総額 584 百万円、一人当たり獲得額 798 千円。【⑭-1-③、⑳-1-①】</p> <p>②寄附者獲得のため、オンラインチャリティーイベント「ギビングキャンペーン」を開催し、令和 5 年度の寄附者数を 650 名にする。</p> <p>③教職員による寄附を増加させるため、教授会、事務連絡会議における寄附依頼を年 2 回行う。教授会では、当該学部が支援基金から多大な支援を受けていること、及び学生からの感謝の声を伝えることで、令和 5 年度の教職員の寄附者数を 130 名にする。</p> <p>④島大会員のつどいを年 2 回開催するとともに、県内定着奨学金に係る協定締結企業と県内定着奨学金受給学生との交流会、及び協定締結企業の若手社員と学生との交流会をそれぞれ年 1 回以上開催する。</p> <p>⑤特定余裕金を除く余裕金のうち、令和 4 年度に運用した額の 2 倍以上の額を運用する。【㉓-1-②】</p> <p>⑥令和 5 年度からの松江地区の京田団地及び曲り田団地の駐車場の有料化に向け、駐車場料金の設定及び関係規程の改正等について必要な手続を行う。【㉓-1-②】</p>		<p>科研費獲得支援事業の効果検証の結果を踏まえ、令和 5 年度の科研費獲得支援事業の実施に加えて、科研費以外の競争的研究費の申請支援を実施した。</p> <p>島根大学支援基金の寄附者獲得のため、オンラインチャリティーイベント「ギビングキャンペーン」を開催するなどした結果、令和 5 年度の寄附者数・受入額は 670 名・3,942 万円となった。また、島大会員のつどいを 2 回開催するとともに、県内定着奨学金に係る協定締結企業と県内定着奨学金受給学生との交流会及び県内定着奨学金に係る協定締結企業の若手社員と学生との交流会を開催した。</p>

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 3</b>		
【自律的経営の確立】 ガバナンスを強化し機動的な経営を推進すると共に、規制緩和により拡大される経営裁量を最大限に活かし、多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的経営を実現する。		Ⅲ
<b>戦略 4</b>		
年俸制、クロスアポイントメント制等の活用を推進すると共に、外部資金及び科学研究費補助金の獲得や教育研究活動の成果に応じたインセンティブを付与するなど人事給与マネジメント改革を推進する。		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①2号年俸制適用職員に適用される外部資金手当の周知をメール、HPで行うほか、2号年俸制適用職員の割合(25%)を下回る学部に対して説明会を行い、2号年俸制適用職員への転換を促進する。  ②クロスアポイントメント手当について周知を図り、クロスアポイントメント制度による教員の派遣を研究推進担当理事と協力して増加させる。	2号年俸制適用職員に適用される外部資金手当の周知をメール、HPで行うほか、学部に対して説明会を行い、2号年俸制適用職員への転換を促進した。(2号年俸制適用教員は199名。大学教員の約31.1%)	



島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 3</b>		
【自律的経営の確立】		
ガバナンスを強化し機動的な経営を推進すると共に、規制緩和により拡大される経営裁量を最大限に活かし、多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的経営を実現する。		Ⅲ
<b>戦略 5</b>		
事務系職員を他機関に派遣するなど、事務系職員の高度化、専門化を図ると共に、高度な知識、技術を持った人材を学内外から専門職として採用・育成するなど、機能強化のための体制を整備する。		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】		<b>令和 5 年度実績 検証</b>
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①事務系職員の文部科学省、国立大学協会に派遣、島根県庁、松江高専などと人事交流を行う。	文部科学省などの機関との間で 9 名の人事交流を実施した。 グローバル分野において、外国人留学生数・海外派遣学生数増加に向けた業務に従事する特定職務職員 2 名を採用した。 職員の高度化を図るため、他機関が実施する高度大学職員養成プログラム等に 3 名を派遣した。	
②グローバル、アドミッション、キャリアなどの高度な知識、技術を持った人材を学内外から特定職務職員等の専門職として採用する。		
③一般事務系職員から特定職務職員に職種変更できるよう研修計画に URA 等の養成プログラムを整備し、高度な知識を持った専門職を養成する。		

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 3</b>		
【自律的経営の確立】 ガバナンスを強化し機動的な経営を推進すると共に、規制緩和により拡大される経営裁量を最大限に活かし、多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的経営を実現する。		
		Ⅲ
<b>戦略 6</b>		
本学の将来を担う経営人材を育成するために、中堅教員を副学長、学長特別補佐等に登用し、また、国立大学協会等が主催する経営人材育成のためのセミナーやワークショップに派遣する。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①国大協が開催予定のユニバーシティ・デザイン・ワークショップに中堅幹部教員 1 名を派遣する。また、同ワークショップにおいて、中堅幹部教員をファシリテーターとして参加させる。  ②令和 5 年度に新たに中堅教員を副学長に 1 名登用する。	国大協が開催したユニバーシティ・デザイン・ワークショップに中堅幹部教員 2 名を派遣した。うち、1 名はファシリテーターとして参加させた。  令和 5 年度に新たに中堅教員 1 名を副学長（ダイバーシティ推進担当）に登用した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 4</b>		
【ニューノーマル時代に向けた体制整備】 知識集約型社会への移行と DX の進展に則した体制整備や教職員の働き方の改善を図ると共に、多様な構成員が活躍できる環境を構築するなど、ニューノーマル時代に向けて体制を整備する。		
		Ⅲ
<b>戦略 1</b>		
教職員が効率的・効果的に業務を遂行し、生産性が向上するよう、事務系業務の電子化や情報システムの高度化により、学内 DX を推進すると共に、ワークフローの改善、業務の削減、事務的業務に関する不断の見直しを行う。		
		Ⅱ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①電子決裁・法人文書管理システムにより決裁文書の電子化率を 80%にするとともに、RPA システム及びチャットボットの利用拡大により業務の自動化を推進する。さらに、財務会計システムによる会計伝票の電子化を実施する。【⑳-1-①、㉕-2-①】</p> <p>②業務削減・改善について、職員が Microsoft365 を活用するスキルを身につけるためのセミナーを実施するとともに、学内事務手続き書類の電子化 100%とすることとし、各課においてワークフローを見直す。【㉕-1-②】</p>	<p>電子決裁・法人文書管理システムによる決裁文書の 3 月末時点における電子化率は約 77.2%であった。</p> <p>また、学内事務手続き書類の電子化率の 3 月末時点における電子化率は 73.0%であった。</p>	<p>文書の電子的管理の原則を前提として、真に紙決裁が必要な案件以外は電子決裁に移行するよう要請していく必要がある。</p>

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		自己評価
<b>目標 4</b>		Ⅲ
【ニューノーマル時代に向けた体制整備】 知識集約型社会への移行と DX の進展に則した体制整備や教職員の働き方の改善を図ると共に、多様な構成員が活躍できる環境を構築するなど、ニューノーマル時代に向けて体制を整備する。		
<b>戦略 2</b>		Ⅲ
在宅勤務、変形労働など多様かつ柔軟な勤務体系を導入する。		
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①松江キャンパス事務系職員の在宅勤務制度を構築する。  ②柔軟な勤務体系として各職種の業務内容に応じてフレックスタイム制度を適用する。	テレワーク規程に則した在宅勤務について実施を促した結果、松江キャンパス事務系職員の在宅勤務の実施率は、10.4%となった。 また、特定職務職員の外、一般職員に対してフレックスタイム制度を適用した。(6 部局)	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 4</b>		
【ニューノーマル時代に向けた体制整備】 知識集約型社会への移行と DX の進展に則した体制整備や教職員の働き方の改善を図ると共に、多様な構成員が活躍できる環境を構築するなど、ニューノーマル時代に向けて体制を整備する。		
		Ⅲ
<b>戦略 3</b>		
老朽化した施設・設備の更新、不要建物の選別、キャンパスの美化など、適切な現状把握に基づく整備計画の見直しと着実な実行により快適なキャンパス環境を実現する。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①保有施設の老朽度、今後の活用ニーズ及び必要なコスト等を踏まえ、本学のキャンパスマスタープラン及びインフラ長寿命化計画（小規模施設等を含む）を改訂・公表するとともに、令和 5 年度の施設整備事業計画を策定し、実施する。【②-1-①】</p> <p>②職員宿舎跡地等の活用及び売却等に係る計画に基づき、土地の貸付けとするか、または売却とするかについて、市場調査の結果を踏まえ、実現可能性の高い団地から、文部科学省に必要な手続を行う。【②-1-②】</p>	<p>令和 5 年度施設整備事業計画を策定し、当該計画に基づく施設整備事業を着実に実施した。</p> <p>職員宿舎跡地等の活用及び売却等に係る計画に基づき、廃止を決定した職員宿舎の住民退居、ライフラインの供給停止及び敷地内への立入制限措置を行った。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 4</b>		
【ニューノーマル時代に向けた体制整備】 知識集約型社会への移行と DX の進展に則した体制整備や教職員の働き方の改善を図ると共に、多様な構成員が活躍できる環境を構築するなど、ニューノーマル時代に向けて体制を整備する。		
		Ⅲ
<b>戦略 4</b>		
全学的な施設の利用状況を確認し、全学共通スペースの増加等施設を有効活用するための全学的な共有化・再配分による合理的な施設マネジメントを推進する。尚、その際、多領域の専門にわたる教員や企業研究者等が自由に議論できるオープン・イノベーションスペースを配置する。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①令和 4 年 12 月から令和 5 年 3 月に実施した施設の利用状況調査結果を踏まえ、前年度より全学的な共用化に対応するスペースを更に拡大した上で、全学共用スペースの利用計画を策定し、多様な教育研究活動及び産学連携促進につながる用途に活用する。また、次年度以降の全学共用スペースの拡大を図るため、施設の利用状況調査を引き続き実施する。【②②-2-①②】	全学的な組織の新設・廃止を踏まえた上で、全学共用スペースの利用計画を策定し、多様な教育研究活動及び産学連携促進につながる用途に活用した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 4</b>		
【ニューノーマル時代に向けた体制整備】 知識集約型社会への移行と DX の進展に則した体制整備や教職員の働き方の改善を図ると共に、多様な構成員が活躍できる環境を構築するなど、ニューノーマル時代に向けて体制を整備する。		
		Ⅲ
<b>戦略 5</b>		
ダイバーシティやインクルーシブな学内環境の構築に向け、女性、外国人や障がい者を積極的に採用し、多様なバックグラウンドを有する構成員が活躍できる環境を整備する。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①ダイバーシティ推進室が中心となり、自走期間に入った文部科学省科学技術人材養成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」を島根県立大学、松江高専、米子高専と最終年度に向けて各種事業を共同で実施する。</p> <p>②上記事業に取り組みながら、令和 5 年 3 月に認証評価において指摘された女性教員比率が低い学部・研究科の計画を踏まえた全学の計画をたて、女性教員を積極的に採用し、令和 5 年度末には女性教員比率 23.3%以上とする。※3</p> <p>③（再掲 教育ビジョン-目標 4-戦略 1-実行計画③）令和 4 年度末 35 名を踏まえ、全学の外国人教員の割合（5.2%）を下回る学部は、令和 8 年度までの目標値を設定し、全学として令和 5 年度末までに 40 名の外国人教員を配置する。※4</p> <p>④障がい者雇用を推進し、令和 5 年度の雇用率を 2.6%以上とする。</p>	<p>女性研究者の研究力向上を支援する事業や、女性研究者同士のネットワーク形成としてご縁ネットミーティングを 4 回を行うとともに、裾野拡大として、中高生を対象とする進路発見ツアーの開催及びネットワークの推し研究室 vol.2（冊子）作成を行った。</p> <p>女性教員比率 23.0%（目標値：23.3%） 外国人教員数 45 人（目標値：40 人） 障がい者雇用率 2.8%（目標値：2.6%）</p>	

※3.認証評価の結果を踏まえている項目 ※4.第 3 期中期目標期間（6 年目終了時）の法人評価結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 4</b>		
【ニューノーマル時代に向けた体制整備】 知識集約型社会への移行と DX の進展に則した体制整備や教職員の働き方の改善を図ると共に、多様な構成員が活躍できる環境を構築するなど、ニューノーマル時代に向けて体制を整備する。		Ⅲ
<b>戦略 6</b>		
グローバル化が進むキャンパスにおいて、外国人教員や留学生との円滑なコミュニケーションを図るために、教職員の外国語能力を向上する。		Ⅱ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①外国語教育センターは、職員研修を担当する部署と連携して受講登録者を 10 名以上確保し、教職員向けのイングリッシュ・ランチクラブを前期・後期に定期的で開催する。また、ロールプレイ事例の動画を作成し、全学の e ラーニングで全教職員に視聴させる。</p> <p>②教職員研修を担当する部署は、教職員に英語外部試験(TOEIC)の受験を推奨し、CEFER B2 レベルに相当する 785 点以上のスコアを獲得した者に対して表彰を行う。</p>	<p>大学職員向けのイングリッシュ・ランチクラブを 4 回実施し、職員の外国語能力向上に努めた。</p> <p>また、教職員の英語外部試験受験をサポートするため、大学教職員用英語教材 Moodle2023 版を立ち上げ、習熟度別の英語リスニング教材をアップし、イングリッシュランチクラブ参加者の登録を行い、その利用を促した。</p>	



島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 5</b>		
【コンプライアンスによる社会からの信頼の獲得】 コンプライアンスの徹底により、社会からの信頼を獲得し、健全な大学経営を行う。		
		Ⅲ
<b>戦略 1</b>		
研修会や e-learning システムを活用して教職員のコンプライアンス教育の徹底を図り、法令に限らず社会の規範や倫理感に沿った業務遂行が図れるように意識を向上させる。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①e-ラーニング講習実施状況及び各部局毎の受講状況を毎月、教育研究評議会で報告するとともに、受講率が低い部局に対してはコンプライアンス強化月間後、毎月未受講者リストを送付し、部局等コンプライアンス責任者による未受講者への受講指導を行い、受講率を 100%にする。</p> <p>②役員、部局長等を対象とした本学の内部統制システムに関する研修会を年 1 回実施する。【②-1-①】</p> <p>③役員会においてモニタリングを年 8 回実施する。【②-1-②】</p>	<p>e-ラーニング講習実施状況及び各部局毎の受講状況を毎月、教育研究評議会で報告するとともに、受講率が低い部局に対してはコンプライアンス強化月間後、毎月未受講者リストを送付し、部局等コンプライアンス責任者による未受講者への受講指導を行った結果、受講率は教職員 99.7%、学生 97.4%であった。</p> <p>令和 5 年度に新たに役員、幹部教職員となった者を対象に内部統制システムに関する講習を開催した。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 6</b>		
【積極的な広報によるブランド力の向上】 ユニバーシティ・アイデンティティ（大学の理念、独自性を示し、自らの存在感を高める戦略・手法）を確立し、適切かつ積極的な広報活動を行い、社会全般の本学の活動に対する理解を深めることによりブランド力を向上させる。		
		Ⅲ
<b>戦略 1</b>		
ユニバーシティ・アイデンティティを確立し、大学として統一感を持った広報を展開する。		
		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①各部局等で作成する媒体等に積極的に新ロゴマークを掲載し、大学として統一感を持った広報を展開する。  ②ユニバーシティ・アイデンティティ確立に向けて、新ロゴマークを活用した大学公式グッズを作成し、各種イベントを通じて周知を行う。	新ロゴマークをテーマにした新しい大学公式プロモーションビデオを制作し、材料エネルギー学部設置記念式典で放映する等、ロゴマークの広報を実施した。また、新ロゴマークを活用した大学公式グッズ（ピンバッジ、クリアファイル、ポロシャツ、ネックストラップ、ボールペン、タンブラー）を作成した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
	自己評価	
<b>目標 6</b>	Ⅲ	
【積極的な広報によるブランド力の向上】 ユニバーシティ・アイデンティティ（大学の理念、独自性を示し、自らの存在感を高める戦略・手法）を確立し、適切かつ積極的な広報活動を行い、社会全般の本学の活動に対する理解を深めることによりブランド力を向上させる。		
<b>戦略 2</b>	Ⅲ	
国立大学法人ガバナンス・コード、統合報告書、大学広報誌、ホームページ等を活用して、様々なステークホルダーにわかり易い情報発信を行う。		
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①紙媒体で発行している各広報媒体において QR コードを活用し、本学の公式ホームページへ誘導する。特に中高生に対しては動画コンテンツへ誘導する情報発信を行う。	<p>大学案内 2024 において、大学公式 HP や各学部 HP, YouTube や各種 SNS につながる QR コードを多用したし、本学の公式ホームページへ誘導を促した。</p> <p>「統合報告書」「広報しまだい」「大学案内」等に対するアンケートを実施した結果、78%（令和 4 年度 76%）の読者に高感度の上昇がみられた。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 6</b>		
【積極的な広報によるブランド力の向上】 ユニバーシティ・アイデンティティ（大学の理念、独自性を示し、自らの存在感を高める戦略・手法）を確立し、適切かつ積極的な広報活動を行い、社会全般の本学の活動に対する理解を深めることによりブランド力を向上させる。		Ⅲ
<b>戦略 3</b>		
大学ランキングを本学の外部評価として捉え、その結果を分析し教育、研究、経営の改善に活用することで、ランキングを向上させると共に、大学の諸活動の活性化を図る。		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
①世界大学ランキング等の評価指標に係る本学と他の同規模大学との評価結果を比較分析し、他大学より高い評価を受けた指標に係る取組をさらに強化する。  ②QS 世界大学ランキング等の評判調査において本学の評価を高めるため、本学の特色となる教育・研究等の活動を抽出し、その情報をホームページや広報誌等を通じて広く発信する。	THE 世界大学ランキング日本版及び THE 世界大学ランキング世界版の結果分析を行い、広報戦略会議において対応を議論した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 7</b>		
【地域医療、先進的医療の中核として地域の安全・安心に貢献する附属病院】 地域医療に密着した医療から先進的医療及び高度医療を展開すると共に、地域における医療人材の確保に取り組むことにより、島根県における中核病院としての責務を果たし、経営基盤の確立と県民に信頼される病院運営を推進する。		
<b>戦略 1</b>		
がんゲノム医療センター、再生医療センターの活動を拡充し、CAR-T細胞療法を含む先進的医療を実施すると共に、外科手術ではロボット支援手術推進センターがダ・ヴィンチ手術の適応拡大を図るなど地域完結型の高度医療を実践し、地域の中核病院として、本院の理念である「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を目指す。		
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】		<b>令和 5 年度実績 検証</b>
		<b>成果等</b>
		<b>課題等</b>
<p>①診療科横断的なゲノム医療の体制強化を図るとともに、先端がん治療センターと新たに設置した乳腺センターとの協働により進行期乳癌症例に対して集学的治療を 20 例実施し、特定機能病院として高度で先進的な医療を推進する。【20-1-④⑤】</p> <p>②ロボット支援手術の保険適応疾患の拡大に伴い積極的な技術拡大を推進し、令和 4 年度実績 (217 件) 比 10%以上のロボット支援手術を実施する。また、より安全・安心なロボット支援手術を実施するためロボット支援手術推進センターを「ロボット手術イノベーションセンター」へと発展的改組するなど手術室運営体制と手術支援体制を整備する。</p> <p>③肝臓移植手術の導入に向けた「肝移植チーム」を構築する。</p> <p>④継続して再生医療に積極的に取り組み、軟骨移植 (目標症例数 2 例)、CAR-T 細胞治療 (目標症例数 2 例)、多血小板血漿治療 (目標症例数 2 例) を行うとともに、世界初となる低ホスファターゼ症小児患者に対する高純度間葉系幹細胞(REC-01)移植の医師主導治験を実施する (目標症例数 2 例)。また、輸血部と再生医療センターとの連携を強化し、自己フィブリン糊を用いた術中止血操作を開始する。加えて、脊髄性筋萎縮症に対する再生医療等製品投与について、適応症例があれば着実に展開する。【20-1-②】</p> <p>⑤新たに契約した治験支援機関 (SMO) を活用し、治験事業を活性化させ、新規治験件数を 15 件を目標とする。また、新たに設置した「臨床遺伝・ゲノム医療センター」を中心に、組織横断的に遺伝子パネル検査の活用を促進させる。検出された遺伝子変異の生物学的意義、対応する薬剤の有無あるいは推奨すべき薬剤や臨床試験の順位付けを行う。【20-1-③】</p> <p>⑥新興感染症に対する次世代ワクチン及び治療用抗体の社会実装を可能とするセンター体制とネットワークの戦略的な構築を完了させるとともに、新型コロナウイルス感染症に対して開発した次世代ワクチンの社会実装を目指し、製薬メーカーとの協議を継続する。また、オミクロン BA.5 株及び XBB.1.5 に対する抗体の基礎的研究開発を完了させる。加えて、高病原性鳥インフルエンザなど新興感染症・熱帯感染症に対するワクチン開発の基礎的研究開発に着手するとともに、1 件以上の特許出願を行い、社会実装に向け製薬会社等との協議を開始する。</p>		<p>「がんゲノム医療センター」を発展的に改組した「臨床遺伝・ゲノム医療センター」を令和 5 年 12 月 1 日に設置した。</p> <p>令和 5 年 4 月の乳腺センター開設以降、146 件 (令和 4 年度実績比 16.8%増) と年間最高件数となる手術を実施した。</p> <p>新たに設置した「臨床遺伝・ゲノム医療センター」を中心に、がん遺伝子パネル検査の活用促進を図り、その結果に基づき対応する薬剤の有無、推奨される薬剤や治療法、Germline Findings 等の検討及び提案を行った。</p>

<b>経営戦略ビジョン</b>	
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自立的かつ透明性の高い大学経営を実現する。	
	自己評価
<b>目標 7</b>	
【地域医療、先進的医療の中核として地域の安全・安心に貢献する附属病院】 地域医療に密着した医療から先進的医療及び高度医療を展開すると共に、地域における医療人材の確保に取り組むことにより、島根県における中核病院としての責務を果たし、経営基盤の確立と県民に信頼される病院運営を推進する。	
<b>戦略 2</b>	
地域社会の変化に柔軟に対応できる医療人の養成、全国に先駆けて病院に設置した医師派遣検討委員会、医師派遣におけるクロスアポイントメント制度の確立など、地域における医療人材の確保に中心的な役割を今後も拡大する。	
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
	<b>令和 5 年度実績 検証</b>
	<b>成果等</b>
	<b>課題等</b>
<p>①「診療・教育・研究の 3 機能を有する総合診療医センターによる総合診療医の養成に関する戦略的プロジェクト」をさらに推進し、地域で活躍できる総合診療医を 5 名育成する。【20-2-①】</p> <p>②島根県の勤務医師実態調査結果をもとに「地域医療政策センター」で診療科偏在と年齢偏在を解析する。この結果をもとに、医師不足が顕著な江津市を含む浜田医療圏域の医療機関に総合診療医と小児科医（小児外科を含めて）などの非常勤医師 3 名と常勤医師 1 名の派遣を行う。</p> <p>③医師不足が明らかである小児科、麻酔科、産科、膠原病内科、腎臓内科、心臓血管外科、耳鼻科、眼科の各診療科医師 1 名をクロスアポイントメント制度を用いて県立中央病院あるいは出雲市立総合医療センターに派遣し、病院間での診療支援体制を強化する。</p>	<p>「診療・教育・研究の 3 機能を有する総合診療医センターによる総合診療医の養成に関する戦略的プロジェクト」をさらに推進し、地域で活躍できる総合診療医を 5 名育成した。</p> <p>医師不足が顕著な江津市を含む浜田医療圏域の医療機関に総合診療医と小児科医（小児外科を含む）など非常勤医師 6 名と常勤医師 1 名の派遣を行った。</p> <p>クロスアポイントメント制度により、県立中央病院あるいは出雲市立総合医療センターへ小児科 1 名、耳鼻科 1 名の医師派遣を行った。</p>

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

<b>経営戦略ビジョン</b>	
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。	
自己評価	
<b>目標 7</b>	
【地域医療、先進的医療の中核として地域の安全・安心に貢献する附属病院】 地域医療に密着した医療から先進的医療及び高度医療を展開すると共に、地域における医療人材の確保に取り組むことにより、島根県における中核病院としての責務を果たし、経営基盤の確立と県民に信頼される病院運営を推進する。	
Ⅲ	
<b>戦略 3</b>	
高度医療を実施するため病院施設・設備の戦略的な整備を図り、患者にとって満足度の高い医療と療養環境を提供し、その結果として安全で安定的な病院運営を推進する。	
Ⅲ	
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>
	<b>成果等</b>
	<b>課題等</b>
<p>①「救急・集中治療調整管理センター」を中心とした安全・安心な医療提供体制整備の一環として、血管外科医を手術支援センター長として配置し、緊急時の迅速な対応を中心とする手術支援体制を構築する。【20-1-⑥】</p> <p>②引き続き高度外傷センターを中心に県全域を対象とした外傷救急を実践するとともに、DMAT による充実した島根県における災害医療体制を全国に向けて展開する。【20-2-②】</p> <p>③高エネルギー診療棟の跡地整備をすすめ、高気圧酸素療法の導入準備を行う。【20-1-①】</p> <p>④放射線治療棟竣工記念式典の開催や、市民公開講座など県に対する広報活動を強化し放射線治療件数の増加に取り組む。</p> <p>⑤入退院管理センターによる病床の見える化に加えて、各病床の体温マップを掲示し効率的な病床の管理・運営に取り組む。【20-3-②】</p> <p>⑥「AI を用いた患者ナビゲーションシステム（愛(AI)ナビ）」の導入と「医療費後払いクレジットサービス（「待たずにラク〜だ）」により、患者さんの利便性を重視した病院運営を行う。</p> <p>⑦山陰地方初の小児脳神経疾患治療センターを設置し、小児循環器外科とともに小児外科診療体制を強化する。</p> <p>⑧「周術期管理センター」を設置し、周術期管理チームの連携を強化することにより多職種連携で周術期合併症の軽減を図り、患者さんに寄り添った医療を実践する。【20-1-⑥】</p>	<p>「救急・集中治療調整管理センター」を中心とした安全・安心な医療提供体制整備の一環として、心臓血管外科医を手術支援センター長として配置し、緊急時の迅速な対応を中心とする手術支援体制を構築した。</p> <p>県内 7 市を運行エリアとするドクターカーの 24 時間運行体制を継続し、ドクターカー総出動件数 397 件、患者総数 258 人の現場救急に対応するなど県全域を対象とした外傷救急を展開した。</p> <p>放射線治療棟竣工記念式典の開催や、市民公開講座など県に対する広報活動を強化し、放射線治療件数は 12,214 件（令和 4 年度実績比 9.2%増）であった。</p> <p>令和 5 年 5 月 1 日に、山陰地方初となる「小児脳神経センター」を設置し、多岐にわたるかつ専門性が極めて高い小児脳神経外科領域における診療体制の強化を図った。</p>

<b>経営戦略ビジョン</b>		
経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。		
		自己評価
<b>目標 7</b>		
【地域医療、先進的医療の中核として地域の安全・安心に貢献する附属病院】 地域医療に密着した医療から先進的医療及び高度医療を展開すると共に、地域における医療人材の確保に取り組むことにより、島根県における中核病院としての責務を果たし、経営基盤の確立と県民に信頼される病院運営を推進する。		Ⅲ
<b>戦略 4</b>		
待遇改善、サポート体制整備及び働き方改革を実行し、職員が心身ともに健康で働き甲斐のある職場環境を構築する。		Ⅲ
<b>令和 5 年度実行計画</b> 【第 4 期中期計画を実行する計画】	<b>令和 5 年度実績 検証</b>	
	<b>成果等</b>	<b>課題等</b>
<p>①新設した「診療支援技術部門サポートセンター」の活動を始動し、診療支援技術部門を活性化させ、働き甲斐のある職場環境の確立に取り組む。</p> <p>②社会から信頼される島根大学医学部附属病院再構築の一助となるよう、複雑化したご献体業務を一元的に管理・運営する「解剖イノベーションセンター」を設置するとともに、ご献体業務に携わる技術職員のキャリアプラン形成を支援し優秀な人材育成に取り組む。※4</p> <p>③職員満足度アンケートと患者満足度アンケートを各々定期的に調査し、職員側因子と患者側因子に乖離がある要因を同定する。これら因子の年次別変化から、現在の島根大学病院で課題と思われる事項上位 3 項目を改善する。外来患者における不満事項の上位を占める診療・会計待ち時間の解消に向けては、「医療費後払いクレジットサービス（待たずにラク～だ）」の周知や「AI を用いた患者ナビゲーションシステム（愛ナビ）」の導入を行う。また、職員については新設した診療支援技術部門サポートセンター会議を定期的に開催し、満足度向上に取り組む。【⑳-3-①】</p>	<p>社会から信頼される島根大学医学部附属病院再構築の一助となるよう、複雑化したご献体業務を一元的に管理・運営する「解剖業務イノベーションセンター」を設置し、解剖業務並びにご献体業務に従事する技術職員 2 名を増員し体制強化を図った。</p>	

※4.第 3 期中期目標期間（6 年目終了時）の法人評価結果を踏まえている項目